

第11回全日本高校模擬国連大会 書類課題講評

グローバル・クラスルーム日本委員会 2017年度選考統括 武藤祐佳
研究主任 南 篤

今年度も全日本高校模擬国連大会に大変多くの参加申し込みをいただきました。心より御礼申し上げます。本年度の採点対象チームは233チームでございました。本年度も昨年度と同様に、10人の選考員のもとで分担し、選考課題に対する採点を行いました。以下、課題全体に関する出題テーマを説明したのち、選考課題の問題別に講評を述べたいと思います。

全体概観

今回の選考課題では、文化や宗教に起因する「価値観」の違いにどのように立ち向かうか、ということ全体テーマとして掲げました。今大会の議題テーマである「ジェンダー平等」もまさにこの価値観の対立が問題の根底に存在しますが、その対立が表出している事例としてヨーロッパにおけるイスラーム諸国からの移民について取り上げた課題図書から「共生」のあり方を考えることは、議題を考えるにあたって、また今会議に限らず急速に進むグローバル化の中で複雑化し続ける様々な国際問題を考えるにあたって、良い機会になると考えたためです。

現代の日本ではまだまだ移民の数はヨーロッパ社会に比べて少ないですが、今回の選考課題を解いた多くの高校生の皆さんにとって、おそらく移民を受け入れる側の社会（課題図書ではドイツ、オランダ、フランスの事例が示されていました）の方がイメージしやすく、考え方も近いでしょう。一方課題図書ではイスラーム側の視点に立った論述が多くみられましたが、これを読み解くにあたっては、皆さんが持つ価値観を相対化させること以外にも、課題図書における視点を鵜呑みにせず批判的に考察することができるかどうか重要なポイントでした。

設問別講評

問1

課題図書の序章「ヨーロッパ移民社会と文明の相克」および第IV章「ヨーロッパとイスラームの共生」を読んで、ヨーロッパはイスラーム世界およびムスリムのどのような特徴

を理解しなければならないか、また「ヨーロッパとイスラームの共生」のためには何が必要か、筆者の考えをまとめなさい。(600字以内)

課題図書 요약 問題であり、本文からいかに問題の要求に沿う形でまとめられるかが鍵となります。そのためこの問題では自分の意見を混ぜるのではなく、客観的に筆者の主張を整理することが求められます。

評価のポイントは以下の通りです。

- ☆ 問題文で指摘されている、「ヨーロッパ側が理解すべきイスラーム世界の特徴」「ヨーロッパとイスラームの共生のために必要なこと」について、本文の内容を不足なく指摘しているか
- ☆ 文章全体を論理的にまとめられているか

イスラームの特徴については、課題図書本文の内容の要点を不足なく抑えられていた答案は一部のみでした。共生のために必要なことについては、ヨーロッパ側の視点のみを批判している内容が多く見受けられました。課題文の立場の如何に関わらず、イスラーム側についての言及も見落とさず拾えたかどうかポイントです。

問2

課題図書は2004年に出版され、本文中では西欧諸国とイスラーム世界の衝突の現れとして9・11同時多発テロやイラク戦争、パレスチナ問題などについての記述がありますが、その後現在まで国際社会では様々な出来事があり、イスラーム世界やヨーロッパに暮らすムスリムをめぐる状況は変化しています。

課題図書の第I～III章ではそれぞれドイツ、オランダ、フランスの社会とイスラーム世界からの移民の関係が取り上げられています。これら3か国のうち1か国を選択し、その国におけるムスリムとホスト社会との関係について、課題図書本文当時の状況をまとめ、たうえで、どのようなきっかけから現在までにどのように変化したか。必要に応じて課題図書以外の情報源も用い、国際社会での出来事と関連させながらまとめなさい。(800字以内)

課題図書から必要な情報を読み取った上で、さらに自分たちでリサーチを行い、状況が現在までにどのように変化したかを問う問題で、読解力だけでなく情報収集能力が必要になります。各国の情勢や国際情勢は刻々と変化しますが、その変化にはそれぞれきっかけがあり、それらを時系列順に整理し考えるというプロセスは、模擬国連で皆さんが各国の代表を担

当し国際問題や担当国の状況をリサーチする際にも行われるものです。

評価のポイントは以下の通りです。

- ✧ 内容に関する設問の指定（①課題図書本文当時の状況・②現在までの変化）を満たしているか
- ✧ ①「課題図書本文当時の状況」について、ムスリムとホスト社会の関係に着目して課題文を要約できているか
- ✧ ②「現在までの変化」について、情報を調べたうえで、論理的にまとめられているか

本文当時の状況は、3カ国それぞれ、課題文中のキーワードを的確に抑えられている答案が多く、現在までの変化についても、国際社会での動きを含む情報をしっかり調べ、筋道を立てて述べられている答案が多くありました。一方、本文当時の状況と現状どちらかの内容に終始するものも多く見られ、バランスよく記述できている答案は一部のみでした。

問3

問1でも取り上げたように課題図書では、「ヨーロッパはイスラーム世界およびムスリムのどのような特徴を理解しなければならないか」という点についての議論が展開されていますが、「ムスリムの側がどうすべきか」という点についての言及は少ないことにも注意が必要です。

そこで、問2で選択した国のホスト社会とイスラーム世界からの移民のコミュニティとの共生のために、どのようなことが必要だと考えるか。その行為などの主体を明確にしながら、問1、問2の内容を踏まえて、あなたの意見を説明しなさい。ただし、あなたの考える「共生」のあり方について触れること。(1000字以内)

問1・2では筆者の見解や各国における現状を整理する問題でしたが、本問ではそれらの内容をもとに、皆さん自身がどう考えるか、という意見論述の問題を出題しました。模擬国連では各国の意見は「政策」という形に落とし込んで議論することになりますが、こういった抽象度の高い問題に対する議論をどのように展開することができるかを狙いとしました。

評価のポイントは以下の通りです。

- ✧ 「共生」がどのようなものかについての考えを明らかにしているか
- ✧ 「共生のために必要なこと」が何かを論拠を示し筋道を立てて論述できているか

「共生のために必要なこと」を考えるにあたって、「共生」という曖昧な概念をどう捉える

かという前提を置いたはずなので、それを明示してほしいというのが一つ目のポイントです。二つ目のポイントでは、共生のために必要なことが、印象論に終始せず、理由づけを明示して論理的に述べられているかが評価を分けました。内容としては、問1と関連させ、ヨーロッパの人々とムスリムのお互いに対する意識に着目し教育やメディアの利用に焦点を当てている答案が目立ったほか、課題図書の内容から発展させて情報を調べ、実際に行われている政策やNGOの具体的な施策などに言及している答案もありました。

問4（英語課題）

国際会議では、いくつかの国がグループを形成し、ある国の大使がその代表として決議案を提出したり、スピーチをしたりする場面があります。みなさんの学校生活においても、部活動や行事、あるいは模擬国連などで、「リーダーシップ」が求められる場面があるかと思います。では、「リーダー」に必要なものは何でしょうか。あなたの考えを、これまでの体験など具体例を挙げながら説明しなさい。ただし、「模擬国連」での体験以外を具体例として用いること。(400words 以内)

英語のエッセイ課題では、模擬国連でも重要な「リーダーシップ」について問いましたが、もちろん模擬国連に留まらず今後皆さんが世界で活躍する人になるにあたって、リーダーとは何たるかを考えておくことは重要です。

評価のポイントは以下の通りです。

- ✧ 文章全体における論の展開が明確でわかりやすいか
- ✧ 本大会を見据えた際に、参加するにふさわしい英語力を備えているか
- ✧ 設問の指定に沿っているか

一つ目のポイントにおいては、リーダーシップに必要な要素と具体例が対応しているか、具体例を挙げる際の前提として、リーダーシップとは何か、こういった場面でのリーダーを想定しているのかについて簡単に仮定を置いたうえで議論しているか、等の評価しました。具体例の記述に終始したり、要素を多く挙げそれぞれの説明が希薄になったりしている答案などが多く見受けられ、400 words をどのように論理的に構成するかが難しかったことが伺えました。なお、設問の指定に関しては、400 words 以内という指定に対して字数が少ない答案がありましたが、指定字数の8割である320 words は満たすことが望ましいです。

以上をもって、選考課題に関する講評とさせていただきます。なお、選考に関する個別の問い合わせは一切お答えできませんので、ご了承ください。